

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校

「つなぐチカラ」(知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ)を育むことで、社会に貢献する人を育てる。

1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ(夢を叶える)」学校をめざす。
2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。

※学校生活満足度を令和4年度には80%以上(学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい→H29:73%、H30:69%、R01:75%)をめざす。

1 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)

(1) 生徒の達成感のある授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。

「安全で安心な授業環境づくり」として、「授業の決まり」を徹底する。

生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施することで、主体的に学びに向かう力を養い、達成感のある授業へとつなげる。

コアカリキュラムの探究型学習をはじめ、「深い学び」のある授業をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を令和4年度には73%以上(H29:65%、H30:59%、R01:68%)をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断「学習で自分が努力したことを認めてくれる」を令和4年度は80%(H29:74%、H30:72%、R01:75%)をめざす。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア 「総合的な探究の時間」や特別活動を中心に教科間の連携を有機的に進め、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。

そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度を令和4年度には77%以上(H29:74%、H30:72%、R01:74%)をめざす。

※ 学校紹介就職率100%(H29:100%、H30:100%、R01:98%)、卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率を、今後3年間5%以下(H29:2.3%、H30:3.0%、R01:0.5%)を維持する。

2 文化をつなぐ(「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成)

(1) 総合的な探究の時間や特別活動等において人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率を引き続き80%以上(H29:83%、H30:77%、R01:82%)を維持する。

3 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)

(1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。

ア 全教職員で生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかり、安全で安心な学びの空間を作る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。

※ 生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率を令和4年度には75%以上(H29:72%、H30:70%、R01:74%)をめざす。

※ 保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率を令和4年度には80%以上(H29:77%、H30:74%、R01:76%)をめざす。

イ 「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度を令和4年度には67%以上(H29:53%、H30:54%、R01:60%)にする。

(2) 生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度を令和4年度には80%以上(H29:76%、H30:73%、R01:75%)をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

※ 近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

※ 「成美マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、蓄積した教育資源を積極的に活用するとともに、チーム成美としての組織的を高め、業務負担の軽減を図る。

※ 時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和2年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ※（ ）内数値は昨年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が75（65）%と10ポイント回復した。また、「教え方に工夫をしている先生が多い」72（67）%、「授業で分からないことについて先生に質問しやすい」71（65）%と、評価が改善してきている。今後もICTの一層の活用と、生徒が主体的に学びに取り組む場を増やす工夫をさらに進め、視覚化・構造化・協働化の授業改善に継続して取り組んでいくことが必要である。 ・生徒の85（79）%が「選択教科は多様なものがあり自分の学びたいことを選べる」と答えている。総合学科の教育課程が第3学年まで移行完了し、一定の評価を得られた。この成果を踏まえ、新学習指導要領に沿った新しい教育課程の編成に取り組む。 ・「学習の評価の方法や基準について納得できる」が80（76）%と上昇した。新学習指導要領に合わせた観点別学習評価の導入に当たり、評価基準・方法をさらに明確化し運用できるように進めていく。 ・「授業では実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がある」が53（58）%と5ポイント下降した。コロナ禍で感染リスクの高い活動として実験・観察が挙げられたため、他の方法で授業を行ったことや、地域等との外部連携も実施できなかつたことが影響した。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・77（71）%の生徒、75（77）%の保護者が「いじめなど困っていることについて真剣に対応してくれる」と答えている。教職員がアンテナを高くして日々の観察を行い、情報共有と組織的対応を徹底し、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう努めていく。 ・生徒の79（74）%が「学校は生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」とする一方、62（60）%が「学校生活についての先生の指導は納得できる」と答えている。すべての生徒と教職員の人権を大切にし、納得を得られるよう十分な対話を行う生徒指導を行っていくことが重要である。 ・「学校行事は周りとは協力しておこなえる」79（79）%、「生徒会活動は活発である」75（72）%であった。コロナ禍で、例年通りに行事を行うことができなかつたが、生徒実行委員会と生徒会を中心に新たな行事を企画したことで、一定の充実感を持ってもらうことができた。 ・「人権について考える機会がある」92（87）%、「命の大切さや人間関係のルールについて学ぶ機会がある」81（76）%と、評価が上昇している。今年度はコロナ禍で、多文化理解公演会の一部縮小と、高大連携授業・地域専門機関との連携授業をweb形式にするなどの制約を余儀なくされたが、命の大切さや差別をせず思い合うことの大切さを様々な機会を通して生徒に伝え続けたことが現れたものと考えられる。人権を大切にしたい取り組みを今後も推進していく。 ・78（73）%の生徒が「授業やHR等で将来の進路や生き方について考える機会がある」と、また83（77）%の保護者が「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導と情報提供を行っている」と答えている。各教科・科目、コアカリキュラム、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、放課後の個別指導、懇談等、あらゆる教育活動が、生徒の進路保障に繋がっていくことを再確認し、取組を進めていく。 ・「学校に行くのが楽しい」73（74）%、「自分のクラスは楽しい」74（75）%と、昨年度改善した満足度が、今年度は伸びなかった。新型コロナウイルス感染症による休校等、十分な学校生活を送ることができなかった中で評価ではあるが、生徒の満足度を高めていけるよう、「生徒ファースト」を第一とした取組を今後も進めていく。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は生徒の間違った行動を正しく指導している」85（80）%、「学校は保護者の相談に適切に応じている」86（79）%、「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導と情報提供を行っている」83（77）%とポイントが上昇した。生徒や保護者に対し、今後もしっかりと納得感が得られるよう丁寧に対応することで、満足度をさらに高めていきたい。 ・「担任の先生以外に保健室等で、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」と答えた生徒は62（60）%であった。生徒相談体制を高めるため、教職員の研修、カウンセラー等専門家との連携、生徒と向き合う時間を確保するための工夫などを行う必要がある。 ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」が62（71）%と大きく値を下げた。コロナ禍で防災避難訓練を1回しか行うことができなかった側面はあるが、命を守る取り組みとして最優先に行わなければならないものとして、周知に努めていく。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に知らされている」96（76）%、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」82（69）%と、保護者評価が向上した。コロナ禍による臨時休校等に備えた保護者・生徒のメール配信網を活用した情報提供も効果的に働いた。 ・「学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている」58（73）%、「学校行事に参加したことがある」47（59）%と、コロナ禍によって授業参観や学校行事へ 	<p>第1回（7/30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○R2年度学校経営計画について ・新型コロナウイルス禍にあつて、学校運営も大変だと察する。まず、生徒・教職員の健康第一に運営することを願う。 ・数値目標を立てていて、民間企業と同じだと思った。達成率の設定が一般的に高いか低いか分からないが、80%達成できれば良いと思う。 ・部活動も良い成績を残していると思う。 ・日本人生徒と外国人生徒がコミュニケーションをとれる場があれば良いと思う。 ・総合学科の特色ある授業に取り組みながら、地域に貢献できる人材育成を期待する。 ・HP、ブログ、メルマガなどを通して情報発信されている。 ・臨時休校になつても生徒の声が聴けるような仕組みがあればよいと思う。 <p>第2回（11/27）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力と進路実現について ・課題研究でめざすことを、SEIBI（Start、Experience、Image、Believe、Improve）と分かりやすく示し、これらの過程を通して、他者と関わり、自己を見直し、成長へと繋げる。素晴らしいことに取り組んでいると思う。 ・フィールドワークの訪問先がいろいろあり、楽しく学んで興味が深まると思う。生徒の訪問先として、できる限り協力する。 ・文献やネットでの調査、インタビュー（実体験）、論文（資料）の準備、プレゼンといった活動は、社会に出て必要なスキルが網羅されている。課題解決のプロセスを学ぶことは大切だと思う。 ・課題研究で将来の夢につながるテーマを選ぶことが、その夢をより良く知るきっかけとなり、身になることが多いと思う。1年目ということで先生方も大変だったと思う。 ・コロナ不景気で進路指導は大変だと思うが、生徒たちのことをよろしく願います。 ○安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくりについて ・コロナ禍で学校行事、地域行事やイベント等が中止になったり規模を縮小したりするなどの状況となつても、学びを止めず、可能な限り今できることを行うことが大切。 ・コロナ禍にあつて十分な練習もできないと思うが、放送部が大阪府高校放送コンテストで立派な成績を収められ、よく頑張っている。軽音楽部もテレビ出演、CD制作など素晴らしい活躍があつた。もっとアピールしてもよい。入部目的で成美高校受験をめざしてもらえると嬉しい。 ・コロナ禍で、まだ大変な状況が続くと思われるが、創意工夫を図りながら生徒のために日々の教育活動に取り組んでいただくことを期待している。 ○働き方改革の推進等について ・With コロナの時代、また働き方改革等、課題は山積しているが、連携・協力を図りながら情報を共有し、実効ある教育活動の推進が展開されることを願う。 <p>第3回（1/20）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般について ・生徒および保護者の学校教育自己診断の評価が向上した項目が多数で、今年度の日々の教育活動の取組の成果が反映された素晴らしい結果だと思う。教員評価が芳しくなかつたのは、新入試、新評価など様々な課題が生起する中、さらにコロナ対応をしなければならぬという超多忙状況において思うことができなかったという疲弊の現れだと思う。生徒、保護者の評価に自信を持っていただき、今後も前向きに取り組まれることを期待する。 ・新型コロナウイルス感染症の対応については、まだまだ先の見えない長期にわたる取り組みになると予想されるが、子どもたちの学びを止めることなく、最大限学びの場を確保していかなければならない。このウイルスと共存する「with コロナ」の時代になっていく中でも、様々な教育活動への対応、生徒や教職員の健康や生活のケア、教職員の働き方改革の推進など課題山積だが、ともに頑張ってもらいましょう。 ○確かな学力と進路実現について ・進学、就職ともにコロナ禍で大変だと思うが、良くやっていると。特に、卒業生の就職先の企業から変わらず求人募集があつたことは、日頃の努力の賜物だと思う。今後とも社会情勢を鑑み、良き指導をお願いする。 ・コロナの影響が社会、経済に大きく影を落とす中、生徒の進路指導も大変だと思うが、生徒の夢の実現をサポートいただくようお願いする。 ・進学については、入試制度の変更も大勢に変化しないということで、学校推薦、AO入試、私学の一般選抜で生徒には頑張ってもらいたい。就職についてコロナの影響で業種によっては求人を控える会社もあり、生徒が希望する業種に就職できない場合もあると思うが、希望者全員が就職できることを期待している。 ・課題研究発表大会で生徒一人一人が発表した経験は、社会に出ても大変役立つことだと思う。優秀研究として紹介されたものは、特によく掘り下げられた内容になっていて感心させられた。 ○「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成について ・生徒および保護者からの学校教育自己診断の評価が高いのに比べて、教職員の評価が下がっているのは、コロナ禍で対面授業や実習などが先生方が満足できるほど十分にできなかったことにあるのではないかと。そのような大変な状況の中でも、生徒の「命の大切さや人間関係のルールについて学ぶ機会がある」の項目が92%と高い肯定率になっているのは良いことだと思う。 ○安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくりについて ・コロナ禍で例年にも増して苦勞が多い中で、学校外へ出かける機会や授業参観の機会、学校行事への参加といった項目が評価されていないのも頷ける。これら以外の点に関して、生徒や保護者の評価は前年比でアップし、良い評価を得ていると思う。先生方の対応が評価に結びついているのだと思う。教職員の評価が前年比でダウンしている項目が多いのは、思い描く姿とのギャップが大きいということだと思うが、先生方で話し合つて、改善に向けて取り組んでいただければと思う。 ・コロナ禍の大変な状況の中、修学旅行を無事に終えられたことに敬意を表する。 ○校務の効率化と働き方改革の推進等について ・コロナ禍で大変な状況だが、新学習指導要領への対応及び生徒相談体制を高めるための研修や外部専門機関との連携、生徒に向き合う時間の確保等ができればさらに良いので

<p>の保護者参加を実施できなかったことが影響した。</p> <p>・教職員の評価では、「年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」72(67)％、「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある」57(53)％と改善したのは、指導と評価についての教員の意識改善や授業見学のとりくみによるものと考えられる。一方で、コロナ禍による様々な変更への対応に時間と労力を費やさざるを得なかったため、ほとんどの項目で自己評価が大きく低下した。</p>	<p>はないか。</p> <p>○令和3年度「学校運営に関する基本的な方針」について</p> <p>・SDGsの視点、コロナなどの感染対策、感染症に関する差別・偏見の払拭について学ぶ時間が盛り込まれていて良いと思う。</p> <p>※全会一致で「基本的な方針」をご承認いただいた。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒ファースト	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動	「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感」を基本的な考え方として、安全安心な授業環境づくりを行い、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度（学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい）の肯定率77%（令和元年度75%） 	生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度は74%であり、目標には届かなかったが、コロナ禍による休校やホームルームでのワークショップ、各種行事に制限があった中でも安全安心の確保に努めるなどにより満足度をほぼ維持できた。(○)
1 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）	<p>(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実・改善の取り組み</p> <p>ア 授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業充実・改善の取り組み</p> <p>イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究</p> <p>(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業アンケート」を活用・分析して課題を把握し、授業改善を継続する。</p> <p>イ・授業充実研修で生徒の「深い学び」の実現をめざす研修に取組むとともに、授業公開を相互研鑽の場とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・進路希望に応じた論文や面接の指導、インターンシップ等体験活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年時から生徒の進路希望を把握し、進学講習体制を確立する。 <p>イ・コアカリキュラムを通じて、キャリアガイダンスを充実させるとともに、探究し表現する活動を通して、社会を生き抜く確かな学力が身につけられるよう取り組みを進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業アンケート」の「授業展開」に関する肯定的意見80%以上を維持（令和元年度86.7%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度（わかりやすく集中して受けることができる、実験・観察・実習や学校外への見学に行く、自分の考えをまとめたり発表する機会がある、教え方に工夫をしている）70%以上（令和元年度68%） 生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率77%以上（令和元年度75%） <p>(2)</p> <p>ア・1回目の就職試験合格率70%以上を維持。（令和元年度75.9%）学校紹介就職希望者の就職率100%（令和元年度98.2%）</p> <p>イ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率5%以下（令和元年0.5%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業アンケート」の「授業展開」（生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている）に係る肯定的意見は89.5%で目標を達成した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度は70.3%であった。コロナ禍で実験・実習や見学の機会が設定できない中で、教員の努力・工夫が実を結んだ。(○) 生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率は76%で僅かに目標に届かなかった。観点別学習評価についての研修を進め、生徒の自己肯定感を高められるようにする。(△) <p>(2)</p> <p>ア・1回目の就職試験合格率は83.8%である。(○)</p> <p>学校紹介就職希望者の就職内定率は100%を達成した。(○)</p> <p>イ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率は0.0%で、目標を達成した。(○)</p>
2 文化をつなぐ（人権意識が身についた） を思いやる心をもつ生徒の育成	<p>(1) 人権教育のさらなる充実</p> <p>ア「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒」との共生</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」や特別活動等で人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国文化理解LHRで中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率80%以上（令和元年度82%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・人権に関する項目における肯定率は87%であった。(◎)</p> <p>コロナ禍で、体験型学習の一部が縮小や変更となったが、常に人権に係るメッセージを発信し続けたことが肯定率に現れたと考えられる。</p>

<p>3 地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 生徒会活動のさらなる充実</p> <p>イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携 ア 地域から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) ア・全教員による登校指導の継続実施 ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。 ・「高校生活支援カード」を活用し教育支援委員会（毎週）において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。課題を抱える生徒フォローアップ事業などによるSC,SSWとの連携を密にし、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。</p> <p>ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2) ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。</p> <p>イ・新入生オリエンテーション、体験入部（中学生、新入生）、成美カップを実施。 ・中高連携の部活動交流を行う。 ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3) ア・改編・広報PTコア会議（週1回）を実施し、総合学科の教育内容の充実をはかり、広報活動を組織的に行う。</p> <p>イ・地域のイベント等への積極的参加 ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加 ・中高連携、地域連携授業を継続して実施し、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア・遅刻率（生徒一人当たりの遅刻回数）を前年度以下とする ・生徒の懲戒件数を前年度以下とする ・生徒向け学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立に関する肯定度75%以上（令和元年度74%）</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率63%（令和元年度60%）</p> <p>ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会における各課題を、毎週、運営委員会・企画会議で共有する。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校行事・生徒会活動に関する肯定度78%以上（令和元年度76%）</p> <p>イ・成美カップを開催し、部活動の活性化と、中学生への魅力発信を行う。 ・中高連携部活動交流5回以上（令和元年度6回） ・大会やコンクールの入賞数10以上（令和元年度25）</p> <p>(3) ア・近隣中学校の訪問5回以上実施（令和元年度10回）</p> <p>イ・地域のイベント参加数25件以上（令和元年度51回） ・校区一斉清掃活動などの参加各15名以上（令和元年度21名） ・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度70%以上をめざす。（令和元年度70%）</p>	<p>(1) ア・遅刻率（生徒一人当たりの遅刻回数）は、昨年度より減少した。（○） ・生徒の懲戒件数は昨年度より減少し、落ち着いた雰囲気を保つことができた。（○） 生徒の状況をきめ細かく見つけ、また対話による指導を通して未然防止に繋げている。 ・基本的な生活習慣の確立に関する肯定度は79%であった。（○）</p> <p>イ・教育相談に関し「担任の先生以外に保健室等で悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率は62%で、目標に1ポイント届かなかった。（△）相談窓口の周知と相談しやすい環境づくりを全教職員でめざす。</p> <p>ウ・毎週の会議で共有を行い、先手を行く対応に努めている。（○）</p> <p>(2) ア・行事、生徒会活動等に関する満足度は75%であった。コロナ禍で、文化祭を中止とするなど行事の変更や制限があった中で、生徒実行委員会と生徒会を中心に新たな行事を企画・実施し、一定の充実感をもってもらうことができた。（○）</p> <p>イ・コロナ禍にあって、成美カップの開催を中止した。（－） ・中高連携部活動交流の開催も見送った。（－） ・コロナ禍のため、本校生徒が参加する大会等の多くが中止となった中で、入賞数25と健闘した。（○）</p> <p>(3) ア・コロナ感染状況を見極め、先方の了解を得ての訪問となったが、生徒近隣中学校への訪問を7回実施し、切れ目のない連携に努めた。（◎）</p> <p>イ・地域のイベントはコロナ禍により軒並み中止となり、令和2年度は実績なし。（－） ・校区一斉清掃活動等は、コロナ禍による感染拡大防止のため、令和2年度は開催されなかった。（－）アフターコロナにおいては、地域に信頼される学校として、これまで行ってきた中高連携、地域連携を元通りに活性化させていく。 ・保護者向け学校教育自己診断アンケートにおける情報発信の肯定度は76%と目標を大きく上回った。（◎） コロナ対策の家庭連絡を丁寧に行い、連絡網を整備したことが相俟って、肯定度が上昇した。</p>
<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進める</p>	<p>(1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。</p>	<p>(1) ・「成美マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、チーム成美としての組織的を高め、業務負担の軽減を図る。 ・時間外勤務月80時間以上の職員を前年度以下とし、なくすように努める。</p>	<p>(1) ・成美マニュアルを更新し、年度当初に全教職員で読み合わせを行い、共通認識を構築することで、効率的な業務に繋げている。（○） ・時間外勤務が月80時間以上となった教職員数は昨年度と比べ減少した。（○）</p>